

Hope for Tomorrow は皆様のご支援のおかげで 5 年目も充実した活動を行うことができました。改めて感謝の意をお伝えいたしたいと思います。

まず「進学支援」は、被災地の福島県、宮城県、岩手県の計 5 高等学校の先生方のご協力を得て、支援を必要とする 99 名の生徒を選定し、計 507 万円の資金援助を行いました。

また「国際交流支援」として、訪日した米国の高校生と被災地の高校生が交流する‘日米高校生サミット’に協力しました。日米の高校生たちが身振り手振りを交えながら意見を交わし、助け合い楽しみながら 1 つのプロジェクトに取り組む姿は、関わる人々を勇気づけ明るい未来を感じさせました。

東日本大震災から 5 年間、Hope for Tomorrow は被災地の高校と常に連携を取りながら活動が出来たのは幸いでした。毎年現地を訪問して生徒たちの様子を見聞きする中で、被災地の高校生を取り巻く環境は年々改善されてきていると実感しました。先生方のお話では、未だに大変な状況にある人々もいる一方、その個々の事情に変化も感じられ、私たちが被災地で行っている「教育支援」の役目はひとつの区切りを迎えたのではないかと思います。

私たちは、Hope for Tomorrow が 5 年間の活動期間を経て初期の目的を充分達成できたと考え、2017 年 3 月末を以って閉会することを皆様にご報告いたしたいと思います。私たちの活動は極めて小規模なものではありましたが、高校側からも期待され活動出来ましたことは大変嬉しいことでした。国内外からのご寄付は 5 年間で総額 30,051,964 円になりました。皆様からの温かいご支援のおかげで 5 年間活動出来ましたことに、心よりの感謝と共に御礼を申し上げます。

2016 年 5 月 吉日
代表理事 田中 均

【 2015 年度（2015 年 4 月～2016 年 3 月）活動報告】

I. 進学支援

2015 年度 進学支援	福島県		宮城県		岩手県	
	合計	原町高校	石巻高校	気仙沼高校	高田高校	大船渡高校
生徒数	99	10	25	25	14	25
支援額	¥5,070,000	¥ 500,000	¥1,290,000	¥1,290,000	¥ 700,000	¥1,290,000

受験費用を援助する進学支援は、これまでと同様の上記 5 校に対して実施しました。家計への負担を軽減するために国公立の大学等に進学を希望する生徒が遠方で受験するケースが増えている状況を踏まえ、旅費など受験にかかる費用が高額となった生徒を重点的に給付しました。

5 年間にわたり実施した進学支援では、延べ 750 人の生徒に対して総額 27,475,000 円の援助を行いました。初年度に進学支援を受けた生徒の中には今春大学を卒業し、教員・公務員となり地元に戻った人や地元企業に就職した人がいます。今後は彼らが復興の担い手となり活躍することを期待したいと思います。

進学支援を受けた生徒・先生からのメッセージ

生徒が書いた受験の感想や今後の抱負と各高校の先生方からの現状報告等の一部を紹介します。

<http://hope-tomorrow.jp/report/>に生徒達からのメッセージを掲載しますのでご覧ください。

福島県立原町高等学校

- ◇ 今回、いろいろな大学へ行き特色も見てくることができました。ある大学では地方の人が少ないように見え、少し緊張しました。高校1年生のときから、しっかり大学を決め勉強することが必要だということを実感しました。これまで先生方に教えていただいたことを活かし、日々成長して教師になってまた地元に戻って来たいと思います。
- ◇ この度は、受験の費用を支援して頂き本当に有難うございます。初めての一般受験はほとんど緊張で終わってしまいましたが、自分なりに精一杯できたと思います。進学後も夢に向かって頑張ります。
- ◇ 受験料を支援していただきありがとうございます。高校生活は毎日楽しく、充実したものとなりました。今後も高校生活で学んだことを活かし、頑張っていきたいと思います。
- 震災の影響で保護者が失職したというケースがいまだに見られます。東日本大震災を風化させず、被災地で学ぶ生徒たちに支援の手を差し伸べていただき、大変感謝しております。進学先の地域を限定せずに支援していただけるのは大変ありがたいことです。支援を受けた生徒たち、家族の皆様からも感謝の声が届いております。(菅野剛先生)

宮城県石巻高等学校

- ◇ あの震災から5年経ち、今でも当時の辛さや恐怖は忘れられません、同時に忘れることができないのは、今まで多くの方から頂いた応援のメッセージや支援の数々です。今回 Hope for Tomorrow さんにご支援を頂き、大学受験をすることができました。皆さんのお心遣いには、いくら感謝してもしきれない程です。今まで支援して頂いた方々に恥じないような、宮城県の復興とさらなる発展に携わることができるような人間になるため、今後とも努力を続けていきたいと思います。
- ◇ 中学1年生の終わりに震災の被害にあい、様々な経験をしてきました。大学受験どころか高校受験でさえ不安なものでしたが、無事にここまで来ることができました。たくさんの方からの支援があったお陰です。これからも何事にも負けず、しっかりした道を歩んでいきます。自分達に夢に向かう道を与えて頂きとても感謝しています。
- ◇ 受験の費用を支援して頂きありがとうございました。この時期は、自分の想像以上にお金が必要になり、それに加えて交通費、受験料、宿泊費などでお金がかかることで親に負担をかけることをとても

心苦しく思っていました。しかし支援のお陰で、そういった思いも軽くすることができました。さらに、自分は身の回りの人だけでなく、遠くの誰かにも思われ、応援されているのだということを改めて感じる事で、受験の際の1つ1つの行動を丁寧に行うことが出来ました。自分は将来父のように建築の分野から復興に携わることが目標です。目標達成の為に努力していくので、ぜひ見守っていて下さい。

- 経済的側面は各家庭により差が大きくなっていると思います。生計維持者の減収など家庭の経済力が回復していない様子も見られ、貴団体からの奨学金制度は大変貴重なものです。生徒たちは貴団体の支援に感謝の念を抱きながら受験に臨むことができました。生徒や保護者および担任からも本当に感謝された支援でした。(3学年主任 阿部省治先生)

宮城県気仙沼高等学校

- ◇ 約5年経った今でも被災地は完全に復興したとは言えません。そんな中、経済状況等の理由で進学を諦める人は多くいます。私自身も進学を決めましたが、親に負担をかけてしまうことを申し訳なく思っていました。だからこそ今回の支援は本当にありがたく感じました。私は念願だった文学を勉強できる学校に無事合格することが出来ました。私が被災した地元で貢献できるのはほんの少しのことかもしれませんが、微力ながら自分ができることを模索していきたいと考えています。学ぶことが、育ててくれた地元と支援して下さった方々への恩返しとなることを信じて、これから多くのことに努めていきたいと思います。
- ◇ このような進学支援を受けることができ、とても嬉しく思います。2校以上の大学を受験するという事は、それなりの費用が必要になり、バイトが出来ない私にとって親への負担が大きく、とても不安で勉強にうちこめないかもしれないと思っていましたが Hope for Tomorrow さんの支援により、安心して受験することができました。今後は大学でたくさん勉強して資格を取得したり、自分が将来どんな職業につきたいか具体的に考えて、在学中のことだけでなく、大学卒業後のことを視野に入れたと考えています。本当にご支援ありがとうございました。
- ◇ 被災し、経済状況も回復していない中、東京や奈良といった遠い受験地で受験をするために家計が苦しくなることは私自身、家族に申し訳のない気持ちでございましたが、皆様のあたたかいご支援により、無事全ての受験を終えることができました。受験の際に支えてくださった全ての方々への感謝を頭に、自らの夢に向かって精進したいとおもいます。

- 貴団体の取り組みにより、経済状況が苦しい中で進学を目指す生徒たちは、物心両面で支えていただきました。深く御礼申し上げます。お陰様で生徒たちは心おきなく受験にチャレンジすることができました。特に経済的に厳しく、受験のための費用捻出に苦慮していた家庭にとっては大変ありがたかったと思います。(3学年主任 長根 彰範先生)

岩手県立大船渡高等学校

- ◇ 私は東日本大震災で家を流されました。その後の家の建て替えや今回の大学受験に関する出費などで、我が家の経済的状況は厳しいものでした。そんな中で今回の支援は大変助かります。今後は今まで住んでいた街を出て、遠く離れた場所で学ぶ事になります。今まで育ててくれた家族や先生、そして震災後に支援して頂いた方々への感謝を忘れずに生活していきたいです。今回の支援の恩返しができるように、進学先でしっかりと学んでいきます。
- ◇ 私は将来地元や被災地で復興のために、地域のために、そして何よりも人々の笑顔のために福祉士として、一人の人間として、貢献したいと強い気持ちと夢を抱いております。しかし、震災により私の家は半壊し、父の会社は被害を受け、現在は給与が削減されているため、進学のために必要な資金を調達することは家計にかなりの負担があり、夢を諦めかけていました。その時、この進学支援制度の話聞き、家族の負担を軽減できる、私の夢を叶えられる、と思ひ応募しました。このような素晴らしい支援を受けるにあたって、入学試験だけでなく現在、将来に誠心誠意励んでいきたいと思っております。
- ◇ この度は大学受験に伴い支援して頂き本当にありがとうございました。大学へ進学してからは、今回支援していただいた方や親など、これまでたくさんの方々に支えられてきたことを忘れずに感謝の気持ちを持ち続けていきます。そして今後は自分自身が社会の一員として、沢山の人を支え、東日本大震災で被災した地域の復興の担い手となるように勉学に励み、自分自身の力を高めていきたいです。
- 貴団体からの支援金でなんとか受験まで至った生徒、また滑り止めを受験することができ安心して第一志望にチャレンジできた生徒、私大に進学することを許された生徒、様々な生徒がこの支援のお世話になりました。あらためて感謝申し上げます。今後、効果的な支援は、生徒の家庭の貧困状態を改善することだと感じています。(3学年主任 志田敬先生)

【写真】 震災の津波で全壊した陸前高田市の高田高校は、元の場所の裏手の高台に昨春、T字型4階建ての新校舎と体育館2棟が完成。室内は木材が多用された解放感のある造り。最新器材が導入された講堂、海洋システム科の実習室や各種実験室などの施設も充実。

◇ この度はこのような支援をして頂きありがとうございました。私は受験のため多くのお金を使い、母に負担をかけてしまいました。しかし **Hope for Tomorrow** さんの支援のお陰で母の負担を少しでも減らすことができ、とても感謝しています。3年間の高校生活はとても短く感じられましたが、私の人生の中でかけがえのないものとなりました。将来は自分の夢である市役所の職員として働き、少しでも支援して下さった方々への恩返しができるようにしていきたいです。

◇ 私は進学に向けて部活動や生徒会活動との両立をしながら勉強に励んで来ました。支援をして頂いたお陰で、経済面での負担を軽減した上で受験に挑むことが出来ました。東日本大震災から5年経った現在でも支援をして頂けるという事に、とても感謝しています。本当にありがとうございました。将来の夢に向け、これからも頑張っていきます。

◇ 進学支援をして頂きありがとうございます。自宅や父の職場が流出し、とても生活に苦しい状態でしたが、その中でこのように支援していらっしゃる方々がいるという事がどれ程素晴らしいことなのか、改めて実感しました。私は高校の数学教師を目指しています。その目標に向けて大学ではさらに自分の知識を増やし、幅広く視野を広げて考える事が出来るように日々の生活を大事にしていきたいです。

- 4年間の仮校舎での生活から新校舎に移り学習環境は改善されましたが、震災後の進学率は低下傾向が続いています。学習環境が整わない中、進学する生徒は多くの経済的な負担を強いられてきました。生徒に対する支援は経済的な支援のみならず、精神的な支えともなっています。多くの生徒が復興に携わりたいという気持ちを持って進路を選択しています。これまでの多大なるご支援に感謝致します。(進路指導主事 新田剛史先生)



Ⅱ. 国際交流支援

『日米高校生サミット in 陸前高田』を昨年7月11日にNPO法人AidTAKATA他と開催し、国際交流基金の招待で来日した米国高校生32人と、高田高校と大船渡高校の生徒24人が参加しました。グループに分かれ陸前高田市内を巡り「ノーマライゼーションという言葉のいらいないまち」をテーマに、問題点を挙げて解決策を話し合い発表しました。サミット後の交流会では、両国の歌を互いに熱唱し全員でダンスに興ずるなど和気あいあいと過ごしました。このイベントでは、当団体が会場設営費を負担しました。

英語個別レッスンでは、福島の子供達に対してボランティア講師の方による指導を隔週2時間行いました。

5年間の国際交流支援活動では、2度の米国ホームステイ・プログラム、日米高校生サミット、ビデオ通話を使った英語レッスンを実施して総額2,020,106円を支出しました。これらに参加した生徒のなかには、大学の留学制度を利用して海外での勉学の機会を得た人や大学院への進学を目指している人などがいます。それぞれが国際的知見を広めるべく自己研鑽に努めている姿は頼もしく、彼らの更なる飛躍が期待されます。

2015年度会計報告

(2015年4月1日～2016年3月31日)

収入の部		支出の部	
1. 寄付金募集事業		1. 事業費	
進学支援	1,215,000	Ⅰ. 進学支援	
国際交流支援	40,000	支援金5校99名分	5,070,000
全ての支援	2,975,009	銀行振込手数料	32,746
銀行利息	377	Ⅱ. 国際交流支援	
計	¥4,230,386	「日米高校生サミット」会場費	100,000
2. 募集事業以外(運営管理費用)		事業費計	¥5,202,746
理事からの拠出	195,932	2. 運営管理費	
計	¥195,932	通信運搬費(電話・切手・サイト運営費)	34,297
寄付公表者(敬称略)		旅費交通費	143,974
三日間だけの日本インド会社(¥500,000)		印刷製本費	32,484
Sun & Moon ヨガ(¥20,000) 鳥生哲也(¥10,000) 白井忠弘(¥10,000) 梶谷純子(¥20,000) 角田敏子(¥10,000)		手数料(残高証明等)	1,594
伊藤玄二(¥50,000) 菅原良子(¥10,000)		運営管理費計	¥212,349

皆様からの寄付は総額4,230,009円となり、前年度からの繰越金と銀行利息を足して事業費5,202,746円を支出しました。運営管理費は支出が212,349円となり、理事からの拠出と前年度からの繰越金で賄い次年度への繰り越しは8,393円となります。日常の通信費・交通費等は全額理事個人の負担とし計上していません。

2016年度は閉会手続きとともに進学支援のみ実施しますので、4月以降に入金されたご寄付は進学支援の給付金となります。なお手続き上、皆様からのご寄付の受付は2016年12月末までとさせていただきます。

特定非営利活動法人
Hope for Tomorrow
(ホープ フォー トゥマロー)

Tel/Fax 03-6407-0936
info@hope-tomorrow.jp
http://hope-tomorrow.jp

日米高校生サミット in 陸前高田 2015

2015年7月11日開催 『「ノーマライゼーションという言葉のいないまち」をつくろう！』



米国高校生 32 人、陸前高田と大船渡の高校生 24 人
陸前高田市役所の方々、社会人ボランティアと大学生
生サポーターが参加して盛大に開催。



<フィールドワーク> 日米混合の8グループに分
かれ、陸前高田市内の公共施設や商業地区、災害公
営住宅などに赴き、高齢者や身体障がい者、外国人
などが不便に感じる所や問題点をそれぞれに探した。



<グループディスカッション> ボランティアがフ
ァシリテーターとなり、現地で見た問題点を整理し
て解決策を話し合った。言葉や文化の違いを超えて
異なる考え方や新しい視点で互いに刺激し合った。



<プレゼンテーション> グループごとに具体的
な改善案を写真やポスターで示し英語と日本語で発表。
同席した陸前高田の市職員たちも感嘆するほど、若
い感性や発想から出た鋭い指摘がされていた。



<交流会> 食事もそこに連絡先の交換や写真
撮影で友好を深めた。相手国の歌を互いに熱唱し、
音楽に合わせたリズムダンスで盛り上がった。



最後は” Let it go” の大合唱で閉会。

市内各地の改善点探る

陸前高田で日米高校生サミット



市内各地での実地調査へと出発する日米の高校生たち
陸前高田（電子新聞に動画、別写真あり）

知恵出し合い 住みよいまちへ

NPO法人陸前高田市支援連絡協議会 A i d T A K A T A 主催の「日米高校生サミット」が陸前高田2015は11日、同市内で開かれた。市が「ノーマライゼーション」という言葉の「知らないまち」の推進を図っている中、参加した高田、大船渡両高校生とアメリカ人高校生たちは、ともに市内各地を調査。4年4カ月前の東日本大震災を契機に生まれた交流機会を生かし、誰もが過ごしやすいまちを目指して改善点を探り合いながら絆を深めた。

気仙からは高田高校生16人、大船渡高校生7人の計23人が参加し、独立行政法人国際交流基金の「米国 J E T (外国人指導助手) 記念高校生訪日研修事業」で来日しているアメリカ人高校生32人と対面。「ノーマライゼーション」という言葉の「知らないまち」のアクションプラン策定にかかわった市職員、大学生サポーターに加え、日本語と英語双方が堪能な民間企業関係者らがフアシリテーターとして支えた。

これは、震災4年4カ月目を迎えた被災地の今を目に焼き付けることも、高齢者・障がい者の立場を意識しながら、改善すべき改善点を発見。陸前高田のどのようなコミュニティに外国人が訪れたいと思ふかや、具体的に改善するための提案もまとめた。

B R T などを利用して戻ってきた高校生たちは、グループごとに議論を交わしながら模造紙に意見をまとめ、気仙の高校生は英語で、アメリカ人は日本語で報告。独特の感性による鋭い視点も随所に盛り込まれ、市職員もうなずきながら熱心な表情で耳を傾けた。

このうち、コミュニティホールを回った班は、高齢者向けに大きな文字での案内充実や、改修点として挙げた。階段の段差の高さも気になったという一方で、「ホール内の円形ベンチは座りやすい」「窓口のスタッフが英語で話しかけても答えてくれる」と長所にもふれた。

将来は英語を生かす仕事を

大高 伊藤君
11日に陸前高田市内で行われた日米高校生サミットに陸前高田2015に参加した大船渡高校2年の伊藤龍馬君(16)は米崎町。「将来は海外での取り引きなど、英語を生かせる仕事をしたい」と、職を輝かせる。

今後の進路に生かさればと、サミットには自ら志願して参加。同年代のアメリカ人らとともに市内を巡り、さらに住みよいまちにするために改善点などをまとめ上げた。

3歳の時から英会話に親しんでいたという伊藤君。中学校時代の



現在も英会話を学び続け、英検2級を取得。それでも外国人を前にすると、緊張してしまふとか。「まだ頭で考えてから、英語を話そう」としている。思ったことをとっさに話せるようになりたい」と、向上心にあふれる。

修学旅行先では、外国人に自ら声をかけて一緒に記念写真を撮るなど、実際のコミュニケーションでも生かしてきた。